

大豆特報

黒 部 市
黒 部 市 農 業 技 術 会 議

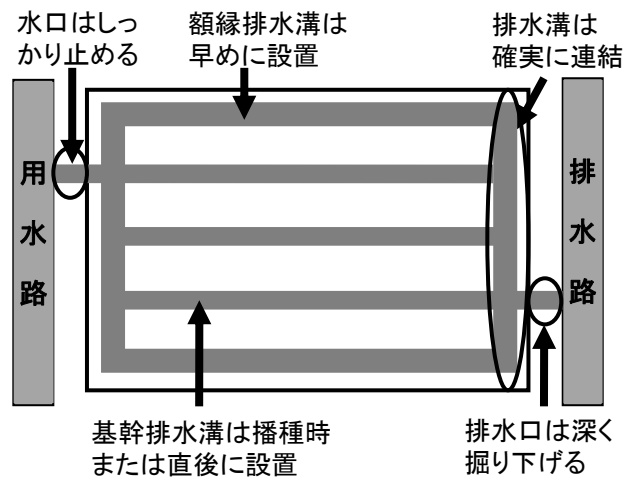
大豆栽培は、排水対策と土づくりが大変重要です。播種前のほ場準備をしっかりと行いましょう。

また、耕起、播種などの一連の作業は土壌が良く乾いた状態で行い、確実な出芽と苗立ち本数を確保しましょう。

麦跡大豆は大麦収穫後、直ちに播種できるよう計画しましょう。

1 排水対策

- (1) 耕起前に、溝幅30cm、深さ25cm程度の額縁排水溝を設置し、深く掘り下げた排水口と連結する。
- (2) 播種時にできた溝は、排水溝に確実に連結させる。
- (3) 播種後も排水溝の点検・手直しを行い、排水を徹底する。



2 土壌改良・施肥

(1) 土壌改良剤

いずれかの石灰質資材を耕起前に施用し、**pH6.0~6.5**に矯正しましょう。

土壌改良剤	粒状貝化石	150~200kg/10a
	チャンピオン	60kg/10a

(2) 有機物

地力の低下を防ぐため、特に大豆の作付回数が多いほ場は発酵鶏ふんやたい肥を施用しましょう。

有機物	発酵鶏ふん	150kg/10a
	牛ふんたい肥	2t/10a

(3) 基 肥

土壌条件に応じて適正な量を施用しましょう。

基 肥	肥料名	土質	狭畦	畝立
	BB特15号	砂壤土	25~30kg/10a	20~26kg/10a
		埴壤土	15~20kg/10a	13~20kg/10a

※麦跡は、10~15kg/10a増やす。

3 種子消毒

本年は春先のネキリムシ類の誘殺数が平年よりかなり多くなっています。早期発見や防除を徹底しましょう。

薬剤名	使用法	使用量	対象害虫	備考
クルーザーMAXX	塗沫	40ml/ 種子5kg	アブラムシ類、ネキリムシ類、タネバエ、フタスジヒメハムシ、茎疫病、紫斑病等	薬剤は青色 処理後は風乾

4 播種

- (1) 播種様式や播種時期並びに品種や粒径に応じた播種量を確認して、適正な栽植本数を確保しましょう。

【狭畦密植】

品種	播種時期	栽植本数(本/10a)	播種量(kg/10a) ^{注1,2)}
えんれいのそら	5月6半旬～6月上旬	19,000～21,000	7.2～8.0kg
	6月中旬	21,000～23,000	8.0～8.7kg
シュウレイ	5月6半旬～6月上旬	19,000～21,000	7.8～8.6kg
	6月中旬	21,000～23,000	8.6～9.5kg
オオツル	6月上～中旬	19,000～21,000	8.0～9.0kg

【畦立】

品 種	播種時期	栽植本数(本/10a)	播種量(kg/10a) ^{注1,2)}
えんれいのそら	5月下旬～6月上旬	14,000～16,000	5.3～6.0kg
	6月中旬	16,000～18,000	6.0～6.8kg
シュウレイ	5月下旬～6月上旬	12,000～15,000	4.9～6.2kg
	6月中旬	15,000～18,000	6.2～7.4kg
オオツル	6月上旬	10,000～12,000	4.2～5.1kg
	6月中旬	12,000～14,000	5.1～5.9kg

注1) 苗立率90%として計算

注2) 大粒の百粒重：えんれいのそら 34.0g、シュウレイ 36.9g、オオツル 38.1g

- (2) 耕起作業は、作土深20cmを目標に行う。碎土率60%以上を確保するため、トラクタの作業速度、ロータリ回転数を調節する。摩耗した耕うん爪は交換する。

- (3) 播種深度は3cmを目安とする。浅いと水分不足に、深いと茎疫病により出芽苗立ちが悪くなる。

5 雑草防除

除草剤は、播種・覆土後、雑草の発生前に均一に表面散布しましょう。

除草剤名	使用時期	使用量 ml/10a	希釈水量 L/10a
ラクサー乳剤	播種後出芽前 (雑草発生前)	500ml	100リットル

注) 散布直後に多量の降雨が予想される場合は、降雨の後に散布しましょう。